

第 11 回全日本高校模擬国連大会 書類選考課題

グローバル・クラスルーム日本委員会

以下の問 1~4 すべてに答えなさい。ただし、問 1~3 はチームで 1 つ答案を作成し、問 4 については生徒 1 人につき 1 つずつ答案を作成すること。なお、氏名や学校名などを解答欄内に書かないこと。 (問 3・4 は次の頁にあります)

問 1 (日本語で解答すること)

課題図書¹の序章「ヨーロッパ移民社会と文明の相克」および第 IV 章「ヨーロッパとイスラームの共生」を読んで、ヨーロッパはイスラーム世界およびムスリムのどのような特徴を理解しなければならないか、また「ヨーロッパとイスラームの共生」のためには何が必要か、筆者の考えをまとめなさい。(600 字以内)

問 2 (日本語で解答すること)

課題図書は 2004 年に出版され、本文中では西欧諸国とイスラーム世界の衝突の現れとして 9・11 同時多発テロやイラク戦争、パレスチナ問題などについての記述がありますが、その後現在まで国際社会では様々な出来事があり、イスラーム世界やヨーロッパに暮らすムスリムをめぐる状況は変化しています。

課題図書の第 I~III 章ではそれぞれドイツ、オランダ、フランスの社会とイスラーム世界からの移民の関係が取り上げられています。これら 3 か国のうち 1 か国を選択し、その国におけるムスリムとホスト社会との関係について、課題図書本文当時の状況をまとめたうえで、どのようなきっかけから現在までにどのように変化したか。必要に応じて課題図書以外の情報源も用い、国際社会での出来事と関連させながらまとめなさい。(800 字以内)

¹ 内藤正典『ヨーロッパとイスラーム ー共生は可能かー』(岩波新書 (905)、2004)

※岩波書店によると本書は十分な在庫数があるとのことですが、念のため早めに入手しておくことを推奨いたします。

問3 (日本語で解答すること)

問1でも取り上げたように課題図書では、「ヨーロッパはイスラーム世界およびムスリムのどのような特徴を理解しなければならないか」という点についての議論が展開されていますが、「ムスリムの側がどうすべきか」という点についての言及は少ないことにも注意が必要です。

そこで、問2で選択した国のホスト社会とイスラーム世界からの移民のコミュニティとの共生のために、どのようなことが必要だと考えるか。その行為などの主体を明確にしながら、問1、問2の内容を踏まえて、あなたの意見を説明しなさい。ただし、あなたの考える「共生」のあり方について触れること。(1000字以内)

問4 (英語で解答すること)

国際会議では、いくつかの国がグループを形成し、ある国の大使がその代表として決議案を提出したり、スピーチをしたりする場面があります。みなさんの学校生活においても、部活動や行事、あるいは模擬国連などで、「リーダーシップ」が求められる場面があるかと思います。では、「リーダー」に必要なものは何でしょうか。あなたの考えを、これまでの体験など具体例を挙げながら説明しなさい。ただし、「模擬国連」での体験以外を具体例として用いること。(400words以内)

問題は以上です。不明点・質問がございましたら、gc[at]jmun.orgにご連絡ください。

([at]は@に変更してください)

頂いた質問は(個人情報を伏せた状態で)公開させていただく場合もございます。